

医療に貢献する超伝導技術の現状と展望

超伝導技術の医療分野での貢献をどのくらいご存じですか。本シンポジウムでは、医療分野において超伝導技術がどのように活用されているのか、また、超伝導技術の導入によりどのような将来が期待されているのかを各分野を先導する方々にご紹介いただきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

なお、休憩時間には第13回応用物理学会超伝導分科会論文賞、同 研究奨励賞の授賞式を予定しています。

日時:2022年3月22日(火)13:30~

場所:青山学院大相模原キャンパス+オンライン

招待講演リスト:

- 雨宮 尚之(京大)
「重粒子線治療装置への超伝導マグネット応用の現状と展望」
- 阪井 寛志(高エネ研)
「超伝導加速空洞の開発現状と産業医療応用展開」
- 柳澤 吉紀(理研)
「高温超電導コイルを使用した永久電流1.3 GHz (30.5 T) NMRマグネットの開発」
- 河本 宏美(キヤノンメディカルシステムズ)
「MRI 超伝導技術への期待」
- 児玉 一宗(日立)
「MRIに向けたMgB₂超伝導磁石」
- 秋山 庸子(阪大)
「低侵襲がん治療に磁気力制御技術は適用できるか？」
- 足立 善昭(金沢工大)
「SQUIDによる生体磁気検出 — MEG, MSG —」

企画

大分類11 超伝導

世話人

井上 昌睦(福岡工大), 淡路 智(東北大),
神鳥 明彦(日立), 山梨 裕希(横浜国大)